

Luncheon Linguistics, 19 June, 2019

2019 (平成 31) 年 6 月 19 日

「日本語話し言葉における情報構造: 助詞を中心に語順とイントネーションも」

発表者: 中川奈津子 (国立国語研究所 言語変異研究系 プロジェクト非常勤研究員)

本発表は2016年に京都大学に提出した博士論文の第1-4章が中心となっている。博士論文では、日本語話しことばの助詞・語順・韻律と情報構造の関連について、主にコーパス調査を用いて調査した。また方法論として、話しことばコーパスの多次元的なアノテーションと分析の手法を提案した。従来、日本語話しことばにおける助詞・語順・韻律は、異なる分野において異なる理論により別々に研究されており、この3つを統一的な枠組みで説明する理論はなかった。本発表では、助詞・語順・韻律の全てについて、同様のアノテーション基準を用い、同様の枠組みで分析することにより、日本語話しことばを統一的に探求する手法を用いた。第1章は、本論文の問題とその背景を概観し、分析手法について議論した。第2章は、日本語の助詞・語順・韻律に関する先行研究に加えて、様々な言語の情報構造に関する先行研究を概観した。第3章では、本論の分析枠組みを提案した。第4章から第6章までは、コーパス分析とその結果を論じた。第4章は、提題助詞と格助詞の分布を調査した。分析によって、提題助詞（ハ、ゼロ助詞、トイウノハ、コピュラ+ケド/ガ）の分布には活性状態が、格助詞（ガ、ヲ、ゼロ助詞）の分布には焦点性と項構造が重要な役割を果たしていることを指摘した。先行研究においては主にハとガの違いが重点的に議論されてきたが、本論文は他の提題助詞や格助詞も含めた助詞の分布を分析した。

発表では触れていないが、第5章では語順、第6章ではイントネーションを論じている。